イノシシの絵 はらさん贈る

はらさん（左端）から紙太鼓用の原画を受け取る沖川施設長

三次の障害者作業所に書き下ろし

「紙太鼓作る」利用者に元気

中国新聞 18.11.11 掲載

詩画家のはらみちをさん(78)＝広島市東区＝が、三次市十日市東の身体障害者作業所「かぜくさ」のために、来年のえとのイノシシの絵を書き下ろした。施設の利用者たちは絵入りの紙太鼓を作り、十二月中旬から、同市君田町の「はらみちを美術館」で販売する。今後、美術館が所蔵する「お母さん」をテーマにした絵なども原画にして紙太鼓を作る予定にしている。（余村泰樹）

子どものころから手足が不自由なはらさんは「みんなの生きがいや社会参加につながれば」と無償で絵を提供した。愛らしいイノシシと、子どもを背負った母が紙太鼓を鳴らしながらイノシシと一緒に歩く姿を描いた二枚。それぞれ「イケイケ　イノシシ　一直線」「ええこと　いっぱい　エト太鼓」とメッセージが添えてある。

同施設は、三次どんちゃん踊りに使う紙太鼓や野草茶などを作り販売。九日に訪問したはらさんは、壁に飾った紙太鼓を見て「こんな素晴らしいのができるんだ。いいなあ」。利用者に「頑張っとってじゃね」と声を掛けて交流。原画を沖川吉弘施設長(66)に手渡した。

「元気なはらさんに負けないようにしたい。ほのぼのした絵の太鼓を早く作りたい」と同市十日市西の佐々木和麿さん(79)。はらさんは「体が不自由なみんなが心を込めて手作りした太鼓の響きが広がって、みんなの心に温かさが伝わってほしい」と期待していた。